



志友会報

802-0985 北九州市小倉南区志井6丁目11-13
（株）武出版 093(962)7740 FAX093(961)8224
Eメール: saigo@skyblue.ocn.ne.jp

本紙の年間購読は本体3,000円+税です。

合気語録

一般に呼称されている大本教は、正しくは「大本」という。この新興宗教は出口才にはじまる。

出口才は、お筆先の預言（預言と予言は違うので注意。預言とは神の啓示であり、予言は人間が行うものである）に従い、「世界平和を実現する者は、日本人から生まれる」という啓示にしたがったもの、その実現者が王仁三郎である、としたものであった。

こうしたユニークかつ革命的な宗教集団である「大本」（一般に「大本教」と称されている新興宗教集団は、正しくは大本教ではなく「大本」という。

この教団の特徴は聖師出口王仁三郎の「霊界物語」を中心とし、世の立替え立直しと「みろくの世」の実現を唱える）はその教義からして当時の軍部や特権階級から嫌われ、また天皇に対する不敬罪事件も尾を曳いて、官憲の手によって教団本部が爆破されるといって惨状を経験している。

また王仁三郎自身、獄中に繋がれるというところもあった。こうしたことを逃れて、王仁三郎は三年の二月、満蒙入を企て、下関から釜山を経由して、村松直澄、名田吉吉、植芝盛平の三名を率いて忽然と奉天に姿を現わしたのである。

そして王仁三郎が、二百騎ほどの馬賊の頭目であった盧占魁配下の軍隊を「神兵」と唱えたため、当時中国最大の軍閥であった張作霖の激怒に触れ、当時鄭家屯の旅団長に王仁三郎一行を捕えさせ、また盧の配下を馬賊討伐として全滅させたのが「大本教事件」である。

盧の軍隊は郊外で皆殺しにされ、屍山血河の惨状であったという。捕えられた王仁三郎一行は、下着一枚で数珠繋ぎに縛られ、便所に行くのも一緒であったとあり、現地において彼等は銃殺と決まり、処刑場に曳き出され、あわや銃殺という寸前に助け出されたのである。

食べ物の中には、神の戒めとその啓示によって、良い物と悪い物があり、これによって運・不運が訪れるようだ。

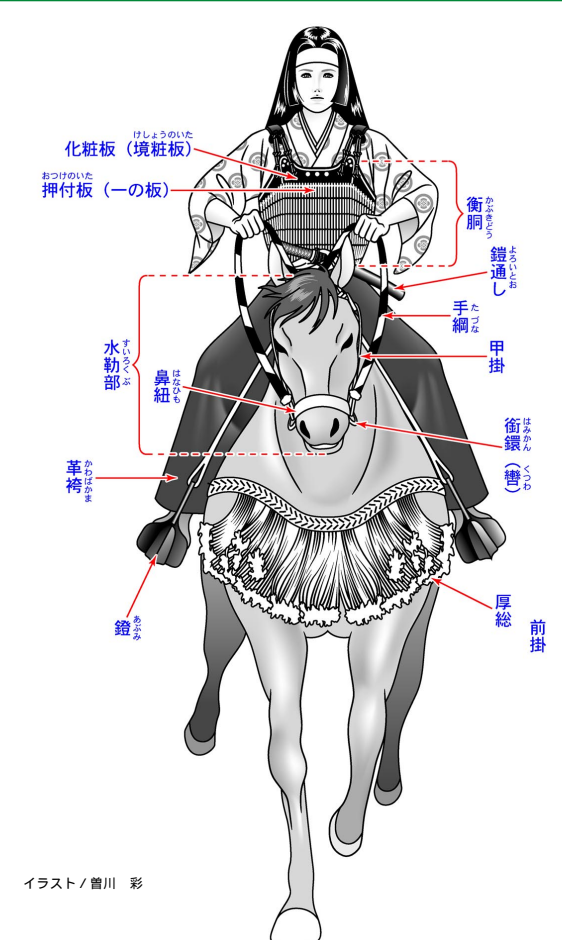
拓の精神に燃え、万民和楽の礎を築いて満蒙入りした時の感懐である。時に大正十三年二月のことであった。この時、世界の数ある宗教の中で、大本教とその教義を同じくした宗教団体は十二団体もあり、中国国内にも大本教と教義を同じくする宗教集団が多数あった。

王仁三郎であり、世界平和とその幸福達成のために立ち上がらねばと考えていた。王仁三郎はこの時、日本から村松直澄、名田吉吉、植芝盛平の三人を引き連れ、下関、釜山というコースで朝鮮半島に渡り、ここから奉天（現在の瀋陽）へと向かった。

王仁三郎の名は中国でも、日本からの予言者ということで、かなり知れ渡っていた。盧は王仁三郎のこうした面に取りついたのであった。そして盧自身、地方の馬賊出身の軍閥であり、売名行為に奔走していた。

合気に通じる耶和良之術

その一



巴は長髪を内田三郎から、卑怯にも掴まれ、馬上組打を申し出た。組打態勢に入ると、内田は忽ち捻られ、鞍の前輪に押し付けられて、アツという間に首を掻かれてしまった。ここには馬上組打での「弥和羅」の術が生きていた。

馬上柔術（馬上組打）巴御前乗馬之図

その記録の中で、巴御前が内田三郎家吉を馬上組打で討ち捕った名勝負は、知り人ぞ知る語り草になっている。巴は伝説によれば、超人的な剛勇の女性となつていて、しかしこの根拠は何処にもない。むしろ彼女は、組打の妙技を身に付けていたのではあるまいか。つまり「耶和良之術」（弥和羅ともいい、柔取ともいう）である。

平安末期・鎌倉初期の武家の女性に巴御前という美女がいた。彼女は組打の名人であった。巴は木曾の豪族・中原兼遠の娘で、今井兼平の妹であった。武勇に優れた女性で、源義仲（平安末期の武将で、為義の孫、二歳の時、父義賢が義平に討たれた後、木曾山中で育てられ、名を木曾次郎義仲という）に嫁し、武將として最後まで随従した。

死、一族滅亡に再嫁し、その夫の敗死後、尼となって越中に赴いたという、波乱万丈の人生を辿った女性である。さて一般に組打というのは、馬から降りての組打と誤解されやすい。しかし源平時代、馬上での組打の例は、以外と多い。

その場合馬は馬上組打が開始されて、その結果双方とも落馬し、格闘戦に纏れ込んで蹴を落とすのであるが、中には馬上組打の状態が騎乗したまま蹴を掻くという事があった。

本来、組打の妙技を身に付けていざ、馬上で勝負を付けるという事も可能である。巴は中原兼遠の娘である。また今井兼平の妹であった。木曾の山中で育ち、豪族の名門であった。本来こつた名門の家に生まれた子孫は男を問わず、家訓に則って、家伝の

西郷派大東流合気武術総本部

大東流霊的食養道HP

幸福をもたらしたはずの飽食の時代 人々が得たものは 一時の快楽と癒えぬ病 そして終わることのない欲の循環
浅ましき食は 猥らな思考と暗愚な生活を 慎ましき食は 気高い思想と明晰な日々を
真の健康へと至る道はすぐ側にあり 古の智慧にならない食餌を正しくすることが 人間が人間として 道理を取り戻す最良の法であると信ずる。

http://www.daitouryu.com/syokuyou/

新刊書籍案内
曾川和翁著 「大東流入身投げ」
発行：株式会社愛隆堂
発売定価 1800円+税

〒802-0985 北九州市小倉南区志井6丁目11-13
（株）武出版 093(962)7740